

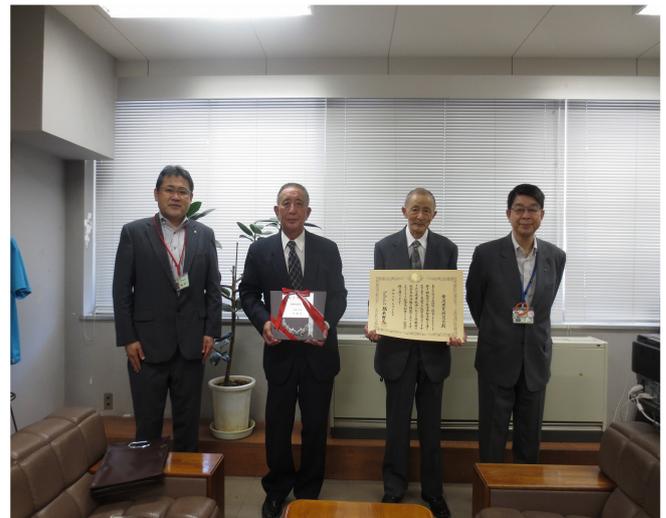
※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

「紫波歴史研究会」（紫波町）の活動が内閣府の「社会参加章」を受章しました。

内閣府では、年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送る「エイジレス・ライフ」を実践している高齢者の事例（「エイジレス・ライフ実践事例」）や、地域で社会参加活動を積極的に行っている高齢者のグループ等（「社会参加活動事例」）を毎年全国から募集し、受章者・受章団体を表章しています。

令和3年度、本県では紫波歴史研究会が「社会参加章」を受章しました。これを受け9月21日に盛岡広域振興局にて授与式が行われ、盛岡広域振興局長から書状及び記念品の楯が授与されました。

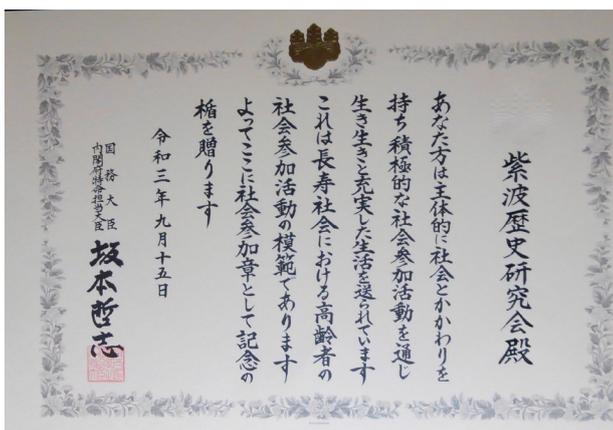
「紫波歴史研究会」は平成29年11月に設立され、現在は会員19名で活動を行っています。紫波地域の歴史遺産を町民の手で調査・研究し、その価値や魅力等を記録・保存し次世代へ継承する取組を通じて町民の歴史文化への理解や関心を深め、市民協働による歴史遺産を活かしたまちづくりを推進しています。



盛岡広域振興局における授与式

これらの研究活動以外にも、QRコード化による地域歴史探訪活用などの情報発信事業、歴史探訪ガイドツアーなどの活動も行っています。地域歴史文化の保存・継承等に貢献している日頃の活動が評価され、今回の表章につながりました。

今後は、歴史遺産をどう伝えていくのかということ、また、歴史遺産の保存と継承が大きな地域課題となっていることから、継承を継続させる方法や組織づくりにも取り組んでいかれるとのことです。



社会参加章書状



社会参加章楯

県は、「幸福」をテーマとして策定した「いわて県民計画（2019～2028）」の一層の推進を図るため、幸福度の向上につながるトレンドや、国内外における「幸福」をめぐる動きを紹介するとともに、県の施策や今後の方向について広く県民に伝えるため「いわて幸福白書2021」を作成しました。

白書は、第1部「新型コロナウイルス感染症と幸福」、第2部「令和3年の幸福トレンド」、第3部『希望郷いわて』の今、第4部「データ編」の4部構成となっており、第3部『希望郷いわて』の今では、県民の幸福感の現状や、幸福度の向上に向けた県の取組・成果を紹介しています。

○ 県民の幸福感の現状

主観的幸福感とは、県民意識調査の「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で把握したものです。その結果、幸福と感じている人の割合は令和2年で56.2%と50%を上回っています。

また、同調査の「あなたが幸福かどうかを判断する際に重視した事項は何ですか。」という設問に関しては、重視する割合が高い順に「健康状況」77.7%、家族関係72.5%、「居住環境」52.0%という回答結果となっており、いずれも50%を上回っています。

県では他にも、政策推進の基本方向「10の政策分野」のもと、一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開しています。

「10の政策分野」のうち政策分野Ⅰの「健康・余暇」分野は、「健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手」を目指すものです。

県民意識調査では、「こころやからだ健康だと感じますか」という設問に対し、5点満点で回答する県民の実感の平均値は、基準年である平成31年の3.00に対し、令和2年は3.15と上昇しています。

一方で、「余暇が充実していると感じますか」という設問については、平成31年の3.05に対し令和2年は2.93と、実感平均値は低下しています。

さらに、幸福に関連する客観的指標であるいわて幸福関連指標においては、健康寿命（平均自立期間）が、男性が平成29年度で79.32年、令和元年で79.63年、女性は平成29年度で83.96年、令和元年で84.18年と男女ともに向上していますが、余暇時間（一日当たり）は、平成29年度で373分、令和元年で372分と低下しています。

いわて幸福関連指標の達成状況 健康・余暇

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R1)	実績値 (R1)	達成度	参考) 全国順位 (東北順位)		
							H29	R1	比較
1 健康寿命 (平均自立期間)	年	男性 ^{※1} 79.32	③80.6	◎79.83	79.63	C	—	—	—
		女性 ^{※1} 83.96	③84.84	◎84.31	84.18	C	—	—	—
3 がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数 (10万人当たり)	人	男性 ^{※1} 305.1	③273.8	◎295.9	298.2	C	—	—	—
		女性 ^{※1} 158.7	③135.7	◎147.5	157.7	D	—	—	—
5 自殺者 (10万人当たり)	人	21.0	16.0	19.0	20.5	D	46位 (5位)	46位 (5位)	⇒ (⇔)
6 地域包括ケア関連 (元気な高齢者割合) ^{※1}	%	98.71	98.86	98.77	99.07	A	—	—	—
7 地域包括ケア関連 (在宅医療連携拠点の事業区域数)	箇所	◎16	27	17	20	A	—	—	—
8 余暇時間 (1日当たり) ^{※2}	分	◎373	390	378	372	D	—	—	—
9 県内の公立文化施設における催事数 ^{※3}	件	1,316	1,385	1,344	1,261	D	—	—	—
10 スポーツ実施率	%	61.7	③65	◎63.5	63.5	A	—	—	—
11 生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	40.2	44.2	41.2	42.7	A	—	—	—

※1 全国を100とした水準 ※2 休日を含む1週間の平均

※3 岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な12施設の催事数

資料：岩手県「いわて幸福白書2021」

政府は令和3年6月に、令和3年度版高齢社会白書を公表しました。令和2年(2020)10月1日現在の我が国の総人口は、1億2,571万人、65歳以上の人口は3,619万人となっており、高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)は、28.8%となりました。一方、同年同日現在の本県の総人口は121.2万人、65歳以上の人口は40.6万人、高齢化率は33.7%となっています。

今年の白書では、令和2年度における日本、アメリカ、ドイツ及びスウェーデンの60歳以上を対象に実施した「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」の結果が掲載されています。

上記調査において、各国の60歳以上の人に、総合的にみて、現在の生活に満足しているか尋ねたところ、現在の生活に満足していると回答した割合(「満足している」と「まあ満足している」の計)はアメリカ94.6%(95.2(平成27年度調査。以下同じ。))スウェーデン92.2%(97.1%)、ドイツ91.6%(91.9%)、日本81.5%(88.3%)となりました。

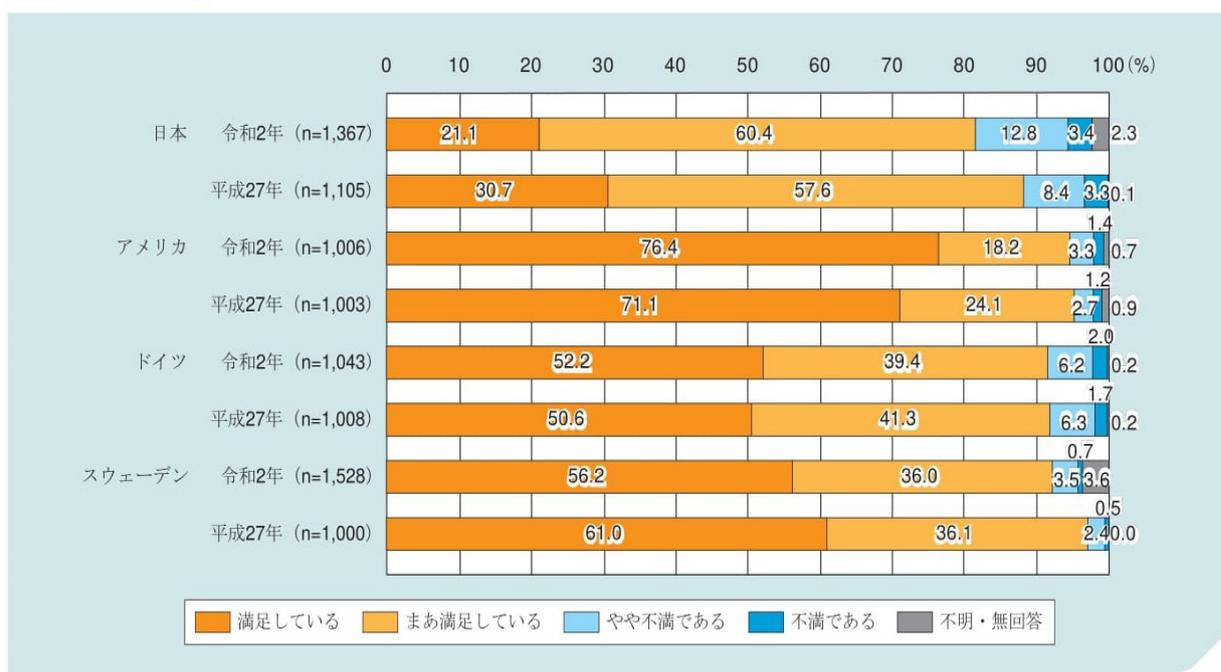
平成27年度調査と比較すると、各国とも割合は減少しているものの、各国の60歳以上の人の8割超が現在の生活に満足していると回答しています。

また、主な収入源を尋ねたところ、いずれの国も「公的な年金(国民年金、厚生年金など)」とする回答割合が最も高く、次いで「仕事による収入」の回答割合が高くなっており、2つ合わせた回答割合は日本88.2%(94.2%)、ドイツ86.1%(87.5%)、アメリカ70.8%(77.5%)、スウェーデンは不明・無回答が増え61.5%(89.3%)の順となりました。

平成27年度調査と比較すると、日本は「公的な年金(国民年金、厚生年金など)」、「仕事による収入」の割合が減少する一方、それ以外の回答が増加しています。

他の国をみると、アメリカ、スウェーデンは、「仕事による収入」が減少しましたが、ドイツは増加しています。また、「公的な年金(国民年金、厚生年金など)」はアメリカ、ドイツ、スウェーデンとも減少しています。

図1-3-1 生活満足度



内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(令和2年度)

令和4年度「ご近所支え合い活動助成金」第1次募集について

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター（以下「コーサポいわて」という。）では、令和4年度「ご近所支え合い活動助成金」の申請を受け付けています。第1次募集の締切は、令和4年1月14日（金）必着です。

「ご近所支え合い活動助成金」は、県民が共に助け合い支え合う地域活動を支援し、安心して暮らし続けることができる地域社会を実現するため、県民の地域貢献活動を支援するための助成制度です。

本助成金は、概ね市町村単位もしくは市町村の一部で行う、①高齢者が主体となって行う活動 ②高齢者等をサービスの対象とした支え合い活動を助成対象としています。助成額は、初年度は上限30万円を限度とし、2年目、3年目がそれぞれ上限15万円、下限5万円、助成期間は最大3年間を限度として設定されています。（継続する場合も申請、審査は毎年必要です。）

また、新型コロナウイルス感染予防のための消耗品（非接触型体温計、マスク、消毒用アルコール等）も経費として認めています。

《参考》

助成事業の活動事例

① 高齢者が主体となって行う活動 ② 高齢者等を対象とする支え合い活動

- ・ 地域活動／地域を活性化する活動、農作業などを通じた三世代交流
- ・ 福祉に関する活動／一人暮らし高齢者世帯の見守りや日常生活支援活動、高齢者や障がい者を対象とした移送サービス、傾聴活動、認知症の人やその家族を支える活動
- ・ 保健・医療に関する活動／健康相談、医療・健康などの正しい知識の普及を図る活動
- ・ 防犯活動／防災や災害時支援のための地域の取組、災害や緊急入院時に対応する安全マップ・緊急持ち出しケースの設置、特殊詐欺などから高齢者を守る活動
- ・ 環境保全活動／環境保全・環境美化活動、環境学習、清掃、花壇づくり、植栽など
- ・ 歴史・伝統に関する活動／紙芝居、地域の歴史・観光資源の調査・学習や地域住民への紹介
- ・ 趣味・技術を生かした活動／楽器・マジックを通じた慰問活動、高齢者を対象としたパソコン教室
- ・ 健康づくり・スポーツ活動／健康をテーマとする講習会、健康講座、ウォーキングやニュースポーツなどスポーツを通じた仲間づくり

申請についてのお問合せは、コーサポいわて までご連絡ください。

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ6階

TEL:019-606-1774 FAX:019-606-1765

E-mail:koreisha-hfk@aiina.jp

※本助成金の詳細は、ホームページでもご覧になれます。（「コーサポいわて」で検索）

（この事業は、公益財団法人いきいき岩手支援財団が、保健福祉又は地域福祉の推進を図るため、民間団体等が実施する先駆的、先導的な事業等に対して助成する「いわて保健福祉基金助成金」の特別枠事業として設けられています。）

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から委託を受けて運営しています。

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2-4-16 やまのえんビル1階 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>